

暮らすように旅する鹿島・太良を考える

むしろこれから鹿島・太良フォーラム 開催報告

開催日時：2024年7月15日（月）
会場：ショッピングタウンピオ1階

第1回テーマ

肥前鹿島駅から始まる、沿線スローツーリズム



共催：佐賀県・鹿島市・太良町 佐賀県



左から太良町長 / 重松氏 / 鹿島市長 / 船口氏 / 山口知事 / 北川氏 / 宮崎氏 / 大島氏

鹿島・太良地域の本物の地域資源を磨き上げ、県内外へ発信していく「むしろこれから鹿島・太良プロジェクト」。
第1回フォーラムのテーマは、「肥前鹿島駅から始まる沿線スローツーリズム」として、肥前鹿島駅エリアの整備が動き出す中で、鹿島・太良地域の「日常」をゆっくりじっくりと楽しめ、スローツーリズムの可能性を地域の方たちと考えました。第1部は、肥前鹿島駅エリア整備の概要説明（肥前鹿島駅エリア整備統括プロデューサー・（株）ブルスタジオ大島氏）とゲストトークが行われ、第2部では地元の実践者の皆さんを中心に、トークセッションが行われました。会場は、ショッピングタウンピオ1階という、日常そのもの。鹿島・太良地域で暮らす多くの方々にお越しいただき、充実した1日となりました。



宮崎氏によるゲストトーク

ゲストトーク



HAGISO代表取締役
日本まちやど協会代表理事
みやざき みつよし
宮崎 晃吉氏

トークテーマ

地域の日常をネットワークさせ
街ぐるみで取り組む
「まちやど」という考え方

トークセッション

トークテーマ

肥前鹿島駅から始まる、沿線スローツーリズム



しげまつ えりこ
重松 恵梨子氏



ふなぐち なおこ
船口 直子氏



きたがわ けんた
北川 健太氏

肥前鹿島駅エリア整備計画について

鹿島・太良地域を1つの圏域としてプロデュースし、この地域にしかない本物の地域資源をゆっくりじっくりと暮らすように楽しめ、スローツーリズムを推進します。県南西部地域の交通・観光の拠点である肥前鹿島駅エリアについては、スローツーリズムの玄関口として整備する予定です。



▲新駅舎イメージ



▲駅エリア全体イメージ

肥前鹿島駅を 「長崎本線沿線えきやど」1号店に

肥前鹿島駅に、中長期の滞在も視野に入れた素泊まり（＋朝食）の滞在施設をつくります。「まちの案内人」による地域のディープな情報や、キッチン付きの広い客室など、まち全体をホテルに見立て、本物の地域資源をゆっくり、じっくり味わっていただく仕掛けを展開します。また鹿島・太良地域のスローツーリズムの世界観を、肥前鹿島駅を起点に沿線全体へ展開し、ローカル鉄道の新しい活用モデルとして、鹿島・太良地域への来訪者の増加、周遊促進、シビックプライドの醸成を目指します。



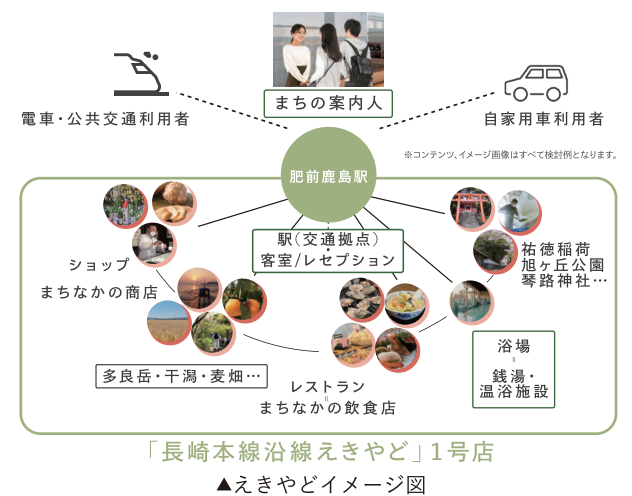
宮崎：日本の宿場町は、それぞれ独自の魅力を持っており、お風呂屋さんや旅籠など、様々な場所が連携して宿場町を形成しており、日本のあらゆる場所が、「まちやど」になる可能性があると思います。今回地域を巡る中で、漬蔵たぞうのダンスバトルや、七浦駅での地元の方のリサیتالなど、まちやど的な光景が多いと感じました。肥前七浦駅で出会った二人とはその後別の場所で再会もして、そういった、奇跡のようなちょっとしたことが地域の日常にあることをとても魅力的に感じています。

「スローツーリズムの玄関口」であり、 「暮らしの玄関口」

駅は地域の顔であり、日常があふれる場所です。鹿島・太良の日常の素晴らしさを存分に味わうことができ、市民の皆さんが作り上げる交流施設としての機能を持つ新駅舎には、鹿島・太良の本物をゆっくり、じっくり楽しむスローツーリズムの拠点として「えきやど（宿泊施設）」や、観光客も地域の方々も自然と集える多目的空間「まちのラウンジ」などを設ける予定です。



大島：駅を中心とした駅周辺エリアが、まち中周遊の拠点になるという発想の計画です。まち全体を宿に見立て、地域の日常を観光資源に「暮らすように」旅を楽しむ。皆さんの日常の暮らしとツーリズムが重ね合わせられる状況を作るのが、この駅が果たすべき機能だと考えています。



鹿島・太良地域周りで、スローツーリズムに通ずる事業や取り組みを実践されている方々に登壇いただき、山口知事・宮崎氏・大島氏を交えながら、トークセッションを行いました。外の視点から感じる鹿島・太良地域の豊かさ、その素晴らしさを今後どう発信していくのか？それによって、鹿島・太良地域は今後どう変わっていくのか？など様々な視点から語られる、官民連携で取り組むこれからの鹿島・太良地域の未来について参加者の皆さんと一緒に考える機会となりました。



佐賀県知事
やまぐち よしのり
山口 祥義



しげまつ えりこ

重松 恵梨子 氏

ひとてまシネマ・
チームぬか床 代表

シアター・シエマ（佐賀市）の元支配人。シエマで様々なイベントを企画運営し、地域の中でのコミュニティ作りの楽しさに目覚める。現在、鹿島に活動拠点を移し、鹿島の発酵文化を発信すべく、漬物や発酵食品のワークショップを開催中。



ふなぐち なおこ

船口 直子 氏

竹崎コハダ女子会 代表

結婚を機に太良町へ。住みやすさや美味しい食材、豊かな自然にハマリ、竹崎島でとれるコハダPRや竹崎島おさんぽマップ作りなど手がける。絵本読み聞かせグループ「だるまさん会」にも所属。個人店向け鮮魚販売「港の入口」も小さく行っている。3人の子育て中。



きたがわ けんた

北川 健太 氏

旅館大村屋 代表取締役

嬉野温泉で一番古い歴史を持つ老舗旅館に生まれ、24歳で15代目に就任。「嬉野茶時」など嬉野温泉でワクワクする企画を多数手掛けている。これまでの物見遊山型の観光ではなく、町の人たちと知り合いになるような「暮らし観光」を進めている。

重松さんからみた鹿島市の魅力は？

古い建物が日常的に使われている風景です。

例えば文化財のような昔からある建物というのは、日本全国にたくさんあると思いますが、「漬蔵 たぞう」のような、築 130 年以上の建物が、今も現役の漬物屋さんとして使われている風景に、風通しの良さを感じました。

常に人が出入りしていて、日常がそこにあって…。展示物みたいに眺める歴史的建造物というよりは、日常的に使われている鹿島ならではの古い建物の姿にすごく魅力を感じました。



漬蔵たぞう 映画と演芸 秋まつりの様子

船口さんからみた太良町の魅力は？

太良といえば、やっぱり自然と食べ物です。

太良の魅力は、自然豊かで、美味しい食べ物です。有明海の水産物や山の美味しいみかんなど、自然の恵みが豊富です。特に栄養豊富な有明海で採れたものは、艶が良くて味も良くて甘みもあり、どこにも負けないような自然豊かなところで育ったものは美味しいなというふうに思っております。地元の漁師さんと農家さんは、自分たちの生産物に誇りを持って作られているので、その紹介に力を入れたいと思っています。



マルシェで竹崎の水産物を PR する様子

北川さんからみた鹿島・太良の魅力は？

日常を活かした「暮らし観光」の可能性です。

暮らし観光という言葉に出会い、今あるものを大切に育て、ケアをしていくような観光が大事になると思い、街歩きや、街全体を誘導する旅館のホームページ作りをしています。旅館だけではなく街ごとに魅力がある「街ごと宿」みたいな形でいわゆる昭和型の旅館を受け継ぎながら、まちやどに戻しています。鹿島・太良でも、まちやどや駅前のカフェなどの新たな取り組みが、街に偶然性や発見の期待を生むと期待しています。



暮らし観光まち歩きの様子

●セッショントピック 1

鹿島・太良の魅力を来訪者にもっと味わってもらうには？

シビックプライドを、

まずは大人が持つことが大切

山口知事：佐賀の人は、「旅行は県外に行くもんだ」「佐賀は面白くないもんだ」といった決めつけをしてしまう「もんだ症候群」が、地域の価値を理解する障壁になっていると感じるんです。

北川：まさに「もんだ問題」はいつとも言われますけど、本当にその問題は大きくないですか？

重松：そうですね。北川さんの嬉野のお話などからも、自分たちが楽しむことが一番じゃないかなと感じます。親世代が愚痴ばかりだったとありましたが、私達が親になった今、北川さんや船口さんのように大人が楽しんでいる姿を見せることが、次世代の子どもたちにとっても故郷の魅力を引き出す大切な要素になると思います。自分たちの故郷で大人たちが楽しそうにしてたら、ここはすごく楽しい場所なんだって思えるはずだと思います。

北川：嬉野のまち歩きイベントは、車社会が進んで人々がなかなか歩かなくなり、目的地にしか行かなくなったことに問題を感じて始めました。駅前が賑わっていた頃は車が普及していなかったため、みんな歩いて帰って個人商店に立ち寄ったり、新しい店を見かけたら「ちょっと覗いてみようかな」と思ったりする、偶然の出会いが生まれていました。しかし車社会になり、こうした偶然の出会いや地域の商店との関わりが減少したのは、ひとつの弊害だと思います。コハダなども今では、「これは東京に売るもんだ」という考えが根付いてしまっている部分もありますよね。

船口：その通りです、地元ではもらうものですから。でも、すごく良いものを地元の人が「もらうもんだ」で収めてしまうのは絶対にやめた方が良くと思うんです。

北川：そうですね。シビックプライドをまず大人が持っていないと、子供に絶対伝わらない。私が子供の頃に東京に出たいと思った

一番の理由は、大人たちの姿が寂しそうで楽しそうじゃなかったからです。でも今私たちは、本当に楽しそうにイベントをしている姿を子供たちに見せられているし、漬蔵たぞうでも、大人も子供も一緒になって楽しんでいる写真を見ました。東京や世界に出て行っても、最終的には地元で暮らしたいと思ってもらうには、「楽しい」とか「カッコいい」と感じられる大人の背中を見せることがすごく大事だと感じますね。



●セッショントピック 2

鹿島・太良の未来をつくるためには？

失敗を恐れずに、

自分たちのできることから少しずつ始める

山口知事：鹿島や太良のまちづくりは、最初から決めつけずに柔軟に進めることが大切です。佐賀県民は真面目に育つところがあるから、柔軟に、皆がいろいろ試行錯誤しながら「ちょっと失敗したけど、次はこうしようか」という感じで、発展型のスローツーリズムを進めていくのが良いのではないかと思います。

宮崎：空き家再生プロジェクトでも、まずは掃除から始めます。最初から全てを決めてしまうと、後からの変更や調整が難しくなる可能性がある、地域の人々が参加し、自分たちの手で少しずつ進めることが、プロジェクトの成功に繋がります。皆で協力しながら段階的に進めることが大切です。

北川：大きなプロジェクトを始める前に、まずは少人数で始めることが大切です。そして失敗を恐れずに、まずは自分たちで小さな種をまいていく必要があ

りますね。イベントに少人数しか来なくても、リスクも少ないのだから、気にする必要はない。最初から多くの人を巻き込む必要はありません。楽しむ気持ちを持った人が数人集まれば、それだけで大きな変化を生むことができます。周りの人たちと一緒に小さなアイデアを実行していけば、その連鎖が広がり、まち全体が変わっていくのです。

大島：駅に限らず、どこでもいいから、明日から自分の好きなことを持ち寄って、挑戦しましょう。これからの 2 年、3 年でどんどん挑戦していくことで、自然と魅力的なものが集まると思います。

鹿島市長・太良町長から

鹿島市長：フォーラムがこのように盛り上がったのは、皆さんの熱意のおかげです。鹿島から盛り上げていこうという思いが、地域を変えていく力がここに 있습니다。若い人たちが鹿島・太良を盛り上げていく姿勢を見て、私たちも一緒に活動していきたいと思います。

太良町長：私たちは、鹿島市の皆さんと一緒に、太良町を盛り上げていきたいと考えています。小さな町ですが、クレメンティンジュースや芝エビ、海苔、そしてコハダなど、地域の魅力を最大限に引き出し、発展させていきたいと思っています。多良駅も改築を計画しています。現在の東側に加えて西側にも出入り口を設ける予定です。

フォーラムの完全版は
Youtubeからご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=ZNFbNauW8us>



vol.1

2024.07